

対策費や検診で質疑

参院公害「水俣病」で現地入り 対策委一行

参議院公害特別対策委員会（占

部秀男委員長、社会）は二日午後五時水俣市を訪れ、浮池市長から水俣病問題について聞いた。

一行は森中守義参議（社会）の現地参加議員も加えて四人で、伊藤県衛生部長らが案内した。市長室で浮池市長が水俣病患者の現状と被害者に対する保護と補償につ

いて報告した。

この中で患者収容の重度心身障害者（児）施設、授産施設の必要性などにも触れた。質疑では森中議員が「水俣病対策費として多くの市費をつぎ込んでいるが、これをチツソに返してもらうつもりはないか」とただしたのに対し、浮池市長は「現在患者家庭とチツソとで裁判しているが、その結果、チツソの責任が明白になれば会社に対しその誠意をみせてほしいと要求したい」と答えた。

また「一般住民の健康診断をなぜやらないのか」との問いに対し、伊藤県衛生部長が説明に立ち「学問的にはやった方がよいが、実際問題として現在のような開業医の触覚で患者を発見し、さらに県公害被害者審査会に審査請求するやり方の方が実利があると思う」と答えた。

このほか各委員とも水俣は公害のうちでも最初のもだが、今後公害基本法の改正が予定されているので、そのための資料とするため①公害発生に伴う緊急措置の権限を地方自治体に移した方がいかどうか②企業の公害に対する責任をどれだけ法律の中に盛り込んだ

らいいか—などについて水俣の経験から文書を作って送ってほしいと要望した。

一行は湯の鬼に宿泊、三日は午前九時からチツソ水俣工場を視察するほか、患者家庭との懇談、患者見舞いなど予定している。